

Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP05/005707

International filing date: 28 March 2005 (28.03.2005)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP
Number: 2004-099271
Filing date: 30 March 2004 (30.03.2004)

Date of receipt at the International Bureau: 12 May 2005 (12.05.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application: 2 0 0 4 年 3 月 3 0 日

出 願 番 号
Application Number: 特 願 2 0 0 4 - 0 9 9 2 7 1

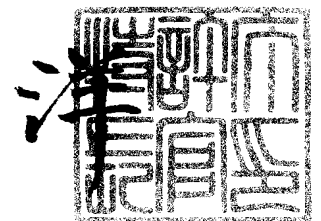
パリ条約による外国への出願
に用いる優先権の主張の基礎
となる出願の国コードと出願
番号
J P 2 0 0 4 - 0 9 9 2 7 1
The country code and number
of your priority application,
to be used for filing abroad
under the Paris Convention, is

出 願 人
Applicant(s): 山 口 拓 道
山 口 す み 子

2 0 0 5 年 4 月 2 0 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小 川



【書類名】 特許願
【整理番号】 P040047
【提出日】 平成16年 3月30日
【あて先】 特許庁長官殿
【発明者】
 【住所又は居所】 静岡県富士市浅間上町 1 6 番 1 7 号
 【氏名】 山口 拓道
【発明者】
 【住所又は居所】 静岡県富士市浅間上町 1 6 番 1 7 号
 【氏名】 山口 すみ子
【発明者】
 【住所又は居所】 静岡県富士市浅間上町 1 6 番 1 7 号
 【氏名】 山口 主真
【特許出願人】
 【識別番号】 390033433
 【氏名又は名称】 山口 拓道
【特許出願人】
 【識別番号】 000178099
 【氏名又は名称】 山口 すみ子
【代理人】
 【識別番号】 100098936
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 吉川 晃司
【選任した代理人】
 【識別番号】 100098888
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 吉川 明子
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 022345
 【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
 【物件名】 特許請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 図面 1
 【物件名】 要約書 1
 【包括委任状番号】 0404108
 【包括委任状番号】 0404109

【書類名】 特許請求の範囲

【請求項 1】

足を乗せるソールに足の甲を覆うアッパーないし鼻緒を取り付けることによって構成されるサンダルにおいて、ソールは外形を形作る外枠と、外枠内に適宜の間隔を開けて設けられ、棒状ないし板状の棧要素を適宜組み合わせることによって形成される内棧とを備えることによって構成されていることを特徴とするサンダル。

【請求項 2】

請求項 1 に記載のサンダルにおいて、隣接する棧要素間の間隔は、棧要素の幅寸法の $1/3 \sim 3$ 倍に設定されていることを特徴とするサンダル。

【請求項 3】

請求項 1 または 2 に記載のサンダルにおいて、外枠及び棧要素の周面形状は、付着した砂等の分離を容易にする易分離形状に形成されていることを特徴とするサンダル。

【請求項 4】

請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載のサンダルにおいて、棧要素はソールの長手方向に沿うように等間隔に複数本配設されていることを特徴とするサンダル。

【請求項 5】

請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載のサンダルにおいて、棧要素は透明ないし半透明の合成樹脂材料によって形成されており、合成樹脂材料中には意匠的效果を有する含有物が含有されていることを特徴とするサンダル。

【請求項 6】

足を乗せるソールに足の甲を覆うアッパーないし鼻緒を取り付けることによって構成されるサンダルにおいて、ソールには底面開口と上面開口とが水平方向にずれるように斜めに形成された傾斜穴部が複数個設けられていることを特徴とするサンダル。

【請求項 7】

請求項 6 に記載のサンダルにおいて、傾斜穴部の口径は 3 mm 以上に設定されていることを特徴とするサンダル。

【請求項 8】

足を乗せるソールに足の甲を覆うアッパーないし鼻緒を取り付けることによって構成されるサンダルにおいて、ソールは外形を形作る外枠と、外枠内に適宜の間隔を開けて設けられ、棒状ないし板状の棧要素を適宜組み合わせることによって形成される内棧とを備え、外枠と内棧とによって区切られた開口部は、底面開口と上面開口とが水平方向にずれるように斜めに形成されていることを特徴とするサンダル。

【書類名】 明細書

【発明の名称】 サンドル

【技術分野】

【0001】

本発明は足を乗せるソールに足の甲を覆うアッパーないし鼻緒を取り付けることによって構成されるサンドルに係り、特に砂浜等で使用するのに好適なソールの構造を有するサンドルに関するものである。

【背景技術】

【0002】

ビーチサンドルは砂浜等で使用されることに伴ってソール底面に水分を含んだ砂が塊になって付着したり、乾いた砂が舞い上がり、ソール上面に堆積する場合があった。またビーチサンドルを履いたまま水辺やプールサイドの浅瀬に入った場合に、思いの外、水の抵抗を受け、歩き難かったり、足を取られて滑ったりするおそれがある。さらに水に濡れた足のままビーチサンドルを履いた場合には、足の裏がビーチサンドルのソール上面に密着してしまい、蒸れ易くなるという問題も生じていた。

【0003】

また特許文献1には、下駄台の表面から裏面に貫通する無数の通気孔を設けた指圧効果を有する下駄が開示されている。しかしこれらのサンドルや下駄は指圧効果等を主な目的にしているため、ビーチサンドルに適用した事例とはなっていない。仮に小さな凹凸や孔が形成されているサンドルを砂浜等で使用した場合には、上述の砂の付着の問題が依然生ずるし、口径の小さな孔を設けたとしても、水の抵抗の問題や蒸れの問題は改善されない。

【0004】

また下記の特許文献1に示すような口径の小さな多数の孔をサンドルに適用した場合には図10に示すようにサンドル101のソール103に、ソール103の上面から底面にかけて孔105が直線的に貫通することとなる。従って誤って図示のような突起物107を踏んでしまい、その突起物107が孔105に嵌ってしまったような場合には、ソール103が突起物107の進入を妨げるに十分な剛性を有していたとしても突起物107がソール103を貫通しソール103の上面に達してしまう。

【0005】

【特許文献1】 実開平7-39501号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

本発明は、このような背景技術及び背景技術が抱えていた問題点を踏まえてなされたものであって、砂等の付着が少なく、水中で使用した場合の水の抵抗が少ない、また、足の裏の蒸れが生じ難く、指圧効果もあり、加えて突起物の貫通が防止でき、意匠的効果の高いサンドルを提供することを課題とするものである。

【課題を解決するための手段】

【0007】

上記課題を解決するために請求項1に記載の発明は、足を乗せるソールに足の甲を覆うアッパーないし鼻緒を取り付けることによって構成されるサンドルにおいて、ソールは外形を形作る外枠と、外枠内に適宜の間隔を開けて設けられ、棒状ないし板状の棧要素を適宜組み合わせることによって形成される内棧とを備えることによって構成されていることを特徴とするサンドルである。

【0008】

請求項2に記載の発明は、請求項1に記載のサンドルにおいて、隣接する棧要素間の間隔は、棧要素の幅寸法の1/3～3倍に設定されていることを特徴とするサンドルである。

【0009】

請求項 3 に記載の発明は、請求項 1 または 2 に記載のサンダルにおいて、外枠及び棧要素の周面形状は、付着した砂等の分離を容易にする易分離形状に形成されていることを特徴とするサンダルである。

【 0 0 1 0 】

請求項 4 に記載の発明は、請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載のサンダルにおいて、棧要素はソールの長手方向に沿うように等間隔に複数本配設されていることを特徴とするサンダルである。

【 0 0 1 1 】

請求項 5 に記載の発明は、請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載のサンダルにおいて、棧要素は透明ないし半透明の合成樹脂材料によって形成されており、合成樹脂材料中には意匠的效果を有する含有物が含有されていることを特徴とするサンダルである。

【 0 0 1 2 】

請求項 6 に記載の発明は、足を乗せるソールに足の甲を覆うアッパーないし鼻緒を取り付けることによって構成されるサンダルにおいて、ソールには底面開口と上面開口とが水平方向にずれるように斜めに形成された傾斜穴部が複数個設けられていることを特徴とするサンダルである。

【 0 0 1 3 】

請求項 7 に記載の発明は、請求項 6 に記載のサンダルにおいて、傾斜穴部の口径は 3 mm 以上に設定されていることを特徴とするサンダルである。

【 0 0 1 4 】

請求項 8 に記載の発明は、足を乗せるソールに足の甲を覆うアッパーないし鼻緒を取り付けることによって構成されるサンダルにおいて、ソールは外形を形作る外枠と、外枠内に適宜の間隔を開けて設けられ、棒状ないし板状の棧要素を適宜組み合わせることによって形成される内棧とを備え、外枠と内棧とによって区切られた開口部は、底面開口と上面開口とが水平方向にずれるように斜めに形成されていることを特徴とするサンダルである。

【発明の効果】

【 0 0 1 5 】

本発明のサンダルによれば、ビーチサンダルとして砂浜で使用したとしても棧要素間に形成される開口面積の大きな間隔と、棧要素の有する易分離形状によって、ソールへの砂の付着は大幅に少なくなる。またソール上面への砂の堆積も生じないし、サンダルを履いて水に入ったとしても水の抵抗が小さいから、歩き易く、転倒等のおそれも少ない。また水に濡れた足のままサンダルを履いたとしても足の裏が蒸れることもない。

また棧要素を構成する材料中にビーズ等の含有物を含有した場合にはサンダルに意匠的效果を付与することが可能となる。またソールに傾斜穴部や斜めに形成した開口部を設けた場合には突起物を踏んだとしても突起物がソール上面に達することもない。また口径の大きな開口部等の存在により、原料コストの削減やサンダルの軽量化も図れる。

【発明を実施するための最良の形態】

【 0 0 1 6 】

以下、図示の実施例 1 ～ 3 を説明する。

図 1 は実施例 1 に係るサンダルを示す斜視図、図 2 は実施例 1 に係るサンダルの平面図である。また図 3 は実施例 1 に係るサンダルの側断面図である。また図 4 は実施例 2 に係るサンダルを示す斜視図、図 5 は実施例 2 に係るサンダルを示す側断面図（a）及び部分拡大断面図（b）である。また図 6 は実施例 3 に係るサンダルを示す斜視図、図 7 は実施例 3 に係るサンダルを示す側断面図（a）及び部分拡大断面図（b）である。図 8 は実施例 1、3 に係るサンダルにおいて棧要素の形状及び配列を変えた他の態様を示す平面図である。また図 9 は実施例 1、3 に係るサンダルにおいて外枠や棧要素に施す易分離形状の他の態様を示す断面図である。

【実施例 1】

【 0 0 1 7 】

実施例 1 に係るサンダル 1 は、足を乗せるソール 3 に、足の甲を覆うアッパー 5 ないし鼻緒 7 を取り付けることによって構成されている。またソール 3 としては適度な弾性力と剛性を有する材料、例えば硬質ウレタンや合成ゴム等の材料が適用できるが、更に硬質な木製や他の硬質プラスチック材料を使用することも可能である。本実施例では、透明ないし半透明の合成樹脂をソール 3 の材料として使用しており、更に合成樹脂材料中に意匠的效果を有する含有物の一例として種々の色のビーズ 17 を散りばめたものを使用している。

尚、上述した点については後述する実施例 2、3 においても同様である。

【0018】

ソール 3 は外形を形作る外枠 9 と、外枠 9 内に適宜の間隔 11 を開けて設けられ、棒状ないし板状の棧要素 13 を適宜組み合わせることによって形成される内棧 15 とを備えている。外枠 9 と棧要素 13 は中実体に限らず、中空体であっても構わない。

外枠 9 は足の形に合わせて湾曲形成されており、ソール 3 の輪郭を構成している。外枠 9 内にはソール 3 の長手方向（図 2 中、左右方向）に沿うように 5 本の棧要素 13 が等間隔に配設されている。

【0019】

そして隣接する棧要素 13 間の間隔 11 の寸法 C は比較的広めになっていて棧要素 13 の幅寸法 B の $1/3 \sim 3$ 倍の範囲に設定されている。これによりソール 3 の裏面側からの砂 A の付着を防止し、ソール 3 の上面側から進入した砂 A の排出を容易にしている。

また外枠 9 及び棧要素 13 の周面形状は、付着した砂 A 等の分離、離脱を容易にする易分離形状に形成されている。本実施例では外枠 9 及び棧要素 13 は易分離形状の一例として長円形状に形成されている。

【0020】

このようにして構成されているソール 3 には、図 1 において仮想線に示すようなアッパー 5 や図 1 において実線に示す鼻緒 7 が取り付けられ、サンダル 1 が完成する。アッパー 5 は、足の甲を完全に被覆するものの他、足先の指部分等、その一部を被覆しない構成のものが採用できる。

また鼻緒 7 とアッパー 5 とを組み合わせたものや、アッパー 5 を複数本の帯紐状のアッパー要素で編んだメッシュ状のものとする 것도可能である。

【実施例 2】

【0021】

実施例 2 に係るサンダル 21 は、ソール 3 の構成が実施例 1 と相違している。即ち、ソール 3 は図 4、5 に示すように通常のサンダルと同じように略平板状に形成されているが、ソール 3 には図示のように底面開口 23 と上面開口 25 とが水平方向にずれるように斜めに形成された傾斜穴部 27 が複数個設けられている。

また傾斜穴部 27 の口径 D は比較的大きめに形成されており、3 mm 以上、好ましくは 5 mm 以上に設定されている。

【0022】

このような傾斜穴部 27 を設けることで、図 5 中、拡大図 (b) で示すように突起物 29 が底面開口 23 から傾斜穴部 27 内に進入したとしても、傾斜穴部 27 の傾斜した内壁面によってその進入は阻止されるから上面開口 25 を通ってソール 3 の上面に突き抜けるのを防止できる。

また傾斜穴部 27 の口径 D を比較的大きめに設定することで砂 A の付着の防止、通気性の確保、水中での水の抵抗の低減も同時に図られている。

【実施例 3】

【0023】

実施例 3 に係るサンダル 31 は、実施例 1 に係るサンダル 1 の構成と、実施例 2 に係るサンダル 21 の構成を組み合わせたような構成を有しており、ソール 3 の構成が実施例 1、2 と相違している。即ち、ソール 3 は、図 6、7 に示すように基本的には実施例 1 と同様、外形を形作る外枠 9 と、外枠 9 内に適宜の間隔 11 を開けて設けられ、棒状ないし板

状の棧要素 1 3 を適宜組み合わせることによって形成される内棧 1 5 とを備えている。

しかし外枠 9 と内棧 1 5 とによって区切られた開口部 3 3 の構成が実施例 1 と相違しており、この開口部 3 3 に実施例 2 において採用した傾斜穴部 2 7 の構成を採り入れたものである。

【 0 0 2 4 】

即ち外枠 9 に対して、その内部に棧要素 1 3 を長手方向の軸中心に対して多少傾けた状態で外枠 9 に取り付けるようにしている。

これにより開口部 3 3 は底面開口 2 3 と上面開口 2 5 とが水平方向にずれるように斜めに形成されるようになっている。

このように構成した場合にも、図 7 中、拡大図 (b) で示すように突起物 2 9 のソール 3 上面への貫通は実施例 2 と同様に防止される。

【 0 0 2 5 】

以上、本発明を実施するための最良の形態、その具体的実施例について詳述してきたが、具体的な構成はこれらの形態や実施例に限られるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲における設計の変更などがあっても本発明に含まれる。

例えば、実施例 1、3 に示すように棧要素 1 3 の形状、配列は図 1、2、6 に示すように直線状で、すの子状に配列するものに限らず、図 8 (a)、(b) に示すように曲線状の棧要素 1 3 を使用して種々の図柄を模した配列とすることも可能である。因みにこのように構成した場合には、平面的なデザインになり易いサンダルに立体的な模様等を施すことが可能となり、意匠的效果が向上する。

【 0 0 2 6 】

また実施例 1、3 において、外枠 9 や棧要素 1 3 に施す易分離形状は、前述のように長円形状とする他、図 9 (a) に示すような楕円形、図 9 (b) に示すようにコーナー部にアールを付けた長方形のもの、図 9 (c) に示すような植物の葉を模したような形状、あるいは図 9 (d) に示すような菱形状等種々の形状を採用することが可能である。

さらにソール 3 の材料中に散りばめた含有物はビーズ 1 7 の他、貝殻の破片や小石や砂、魚の鱗、色紙 (軟質ビニール製のものを含む) の小片、金箔やアルミ箔の小片、あるいは反射テープの小片、造花等、さらに着色したオイル等の液体、その他種々の材料が適用可能である。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 2 7 】

【図 1】 実施例 1 に係るサンダルを示す斜視図である。

【図 2】 実施例 1 に係るサンダルの平面図である。

【図 3】 実施例 1 に係るサンダルの側断面図である。

【図 4】 実施例 2 に係るサンダルを示す斜視図である。

【図 5】 実施例 2 に係るサンダルを示す側断面図 (a) 及び部分拡大断面図 (b) である。

【図 6】 実施例 3 に係るサンダルを示す斜視図である。

【図 7】 実施例 3 に係るサンダルを示す側断面図 (a) 及び部分拡大断面図 (b) である。

【図 8】 実施例 1、3 に係るサンダルにおいて棧要素の形状及び配列を変えた他の態様を示す平面図である。

【図 9】 実施例 1、3 に係るサンダルにおいて外枠や棧要素に施す易分離形状の他の態様を示す断面図である。

【図 10】 サンダルに孔を穿けた場合の問題点を示す側断面図である。

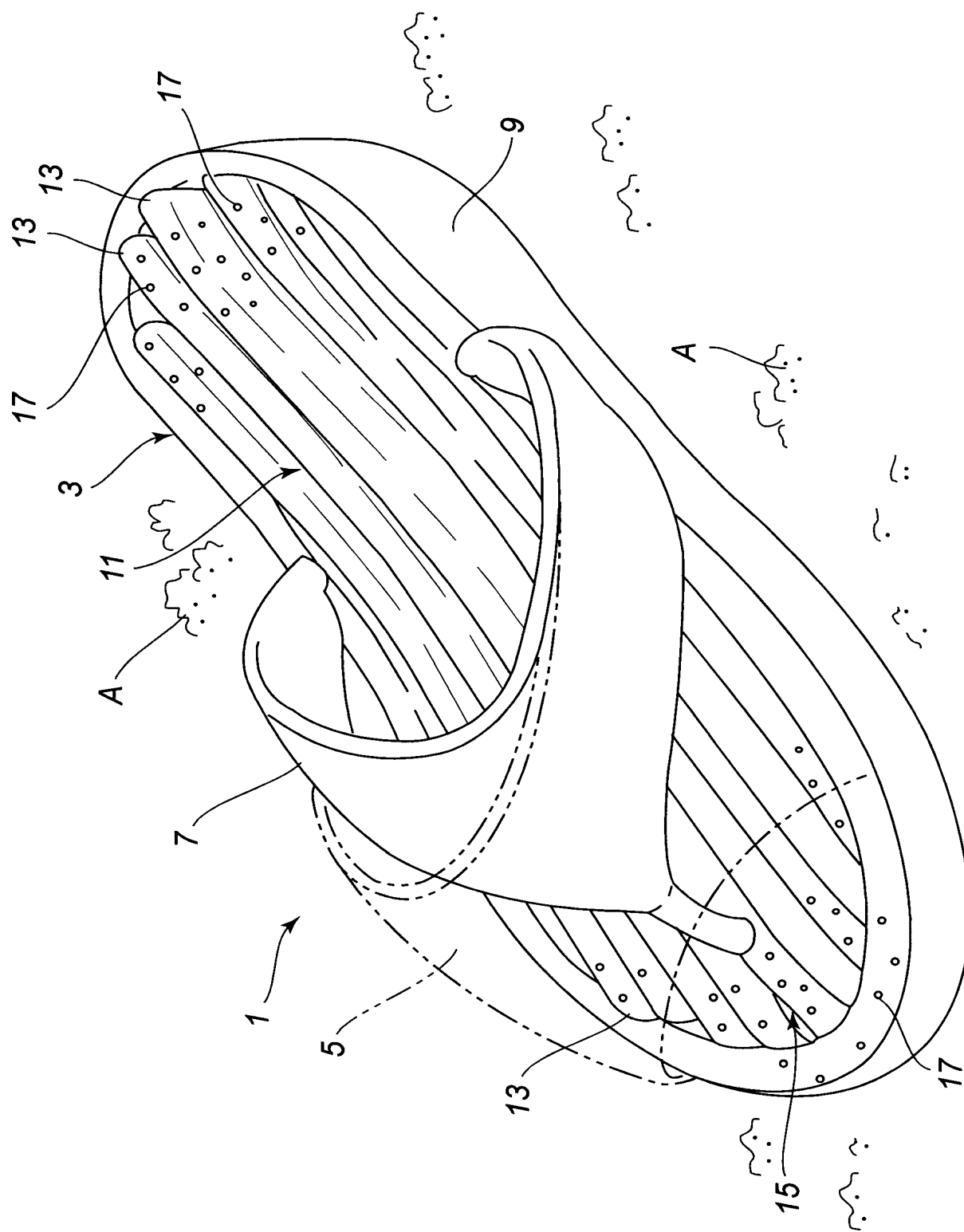
【符号の説明】

【 0 0 2 8 】

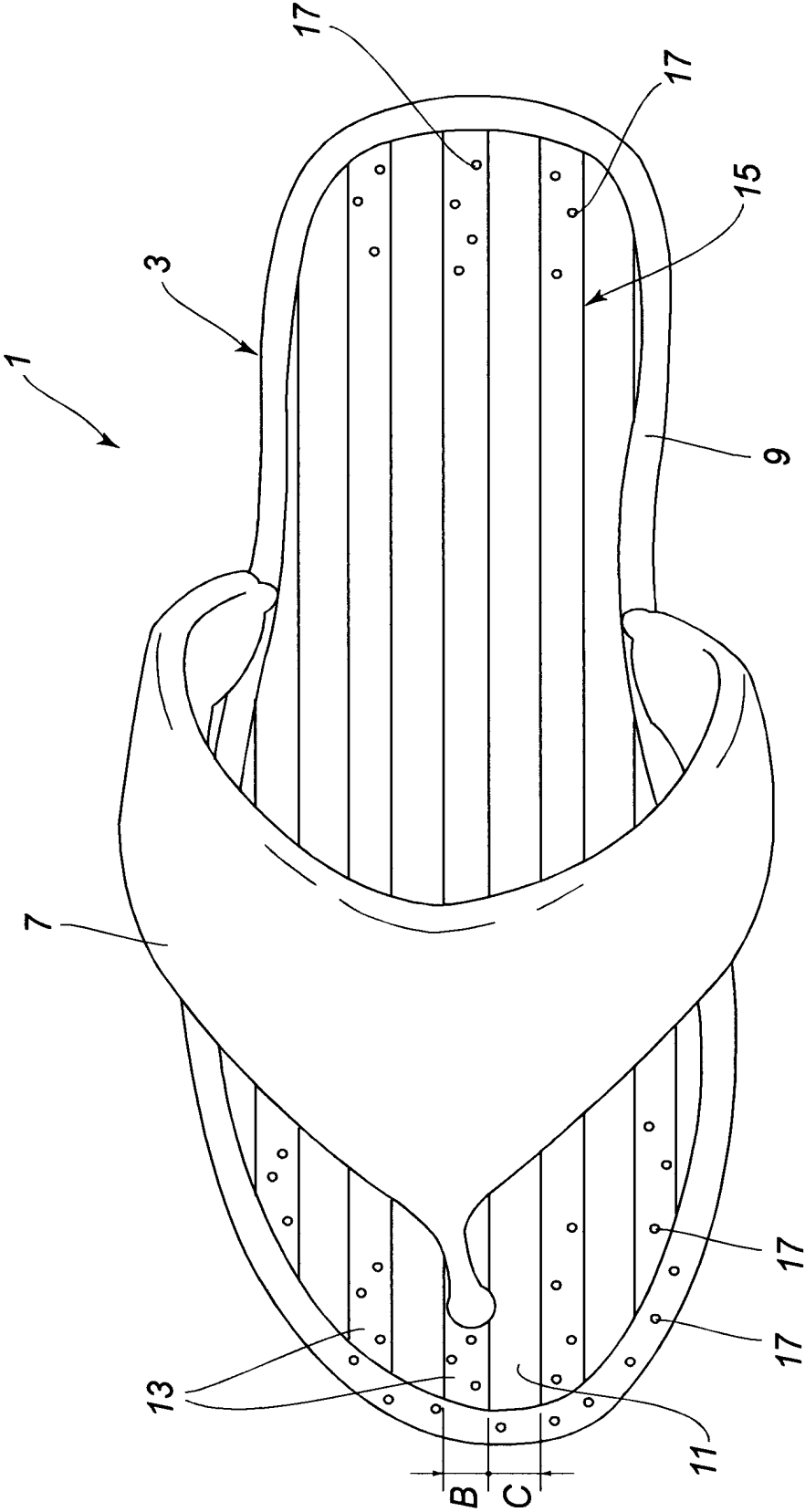
1	サンダル (実施例 1)	3	ソール
5	アッパー	7	鼻緒
9	外枠	1 1	間隔

1 3 棧要素
1 7 ビーズ
2 1 サンドル（実施例 2）
2 5 上面開口
2 9 突起物
3 1 サンドル（実施例 3）
A 砂
C （間隔の寸法）

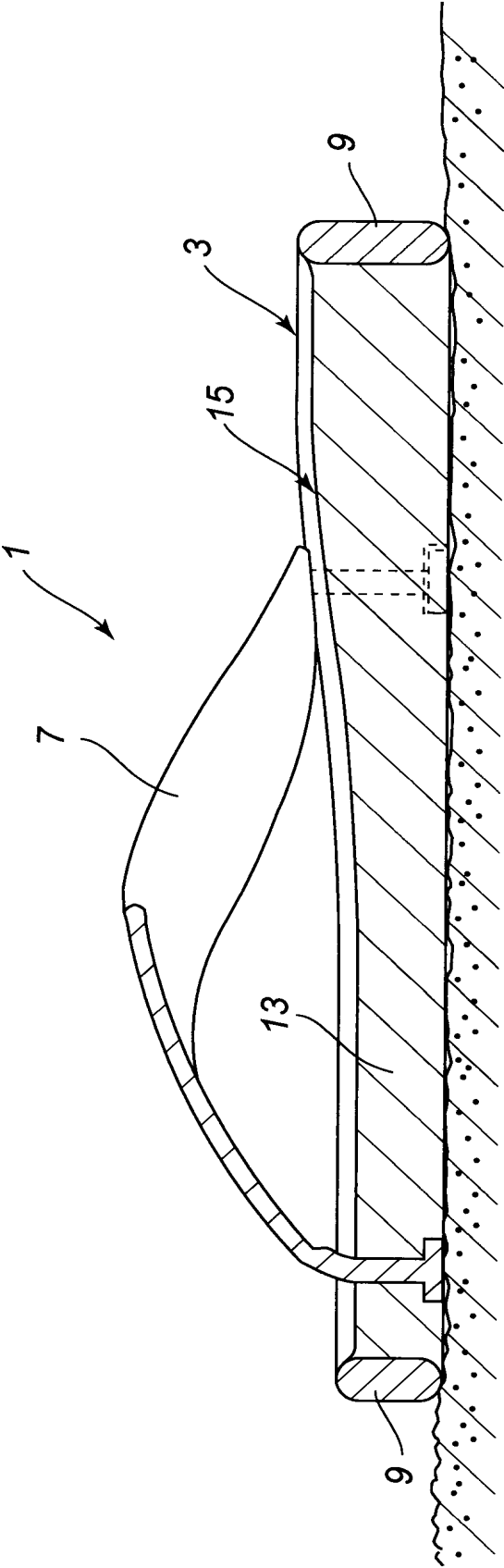
1 5 内棧
2 3 底面開口
2 7 傾斜穴部
3 3 開口部
B （棧要素の）幅寸法
D （傾斜穴部）口径



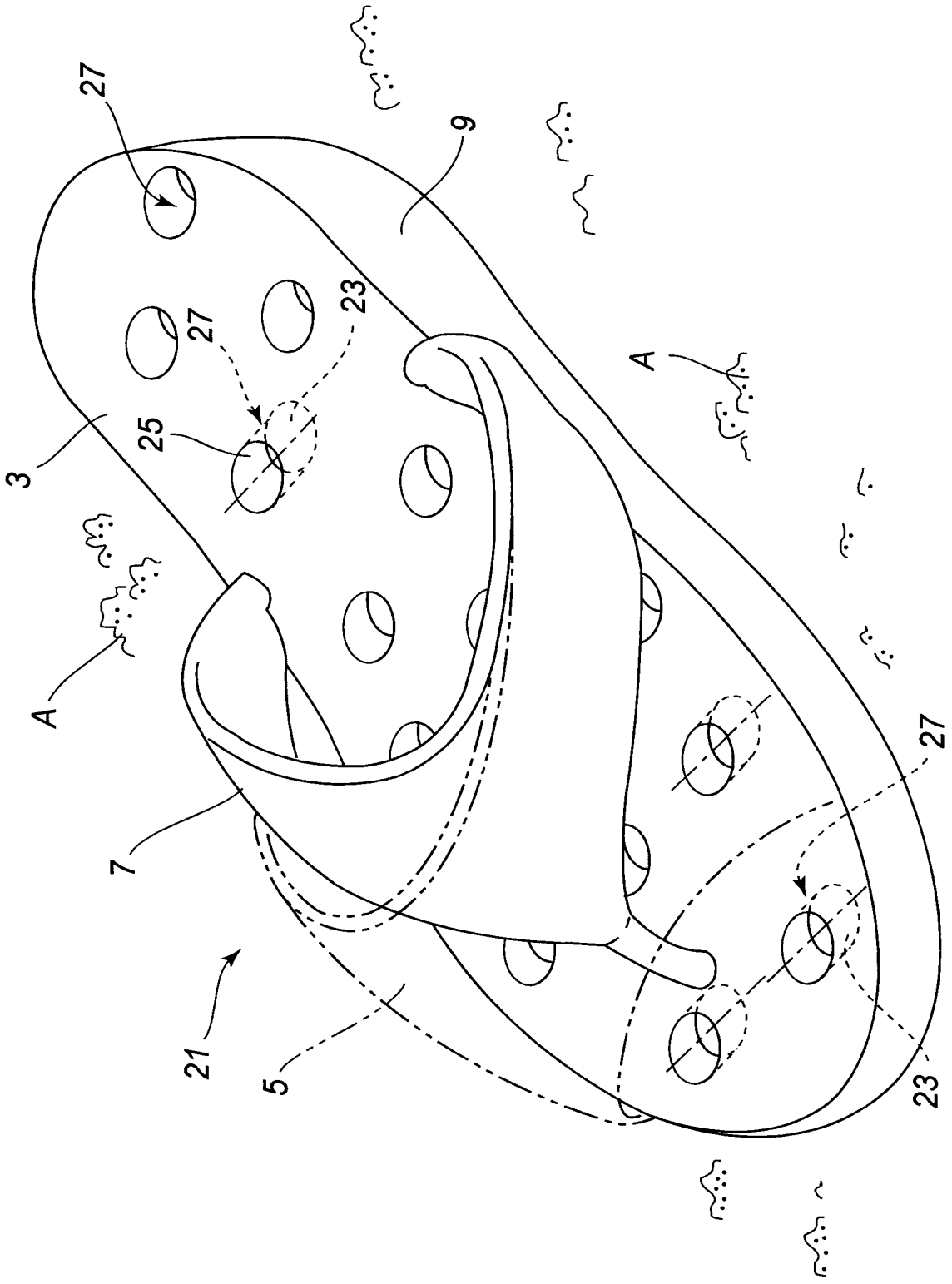
【图 2】

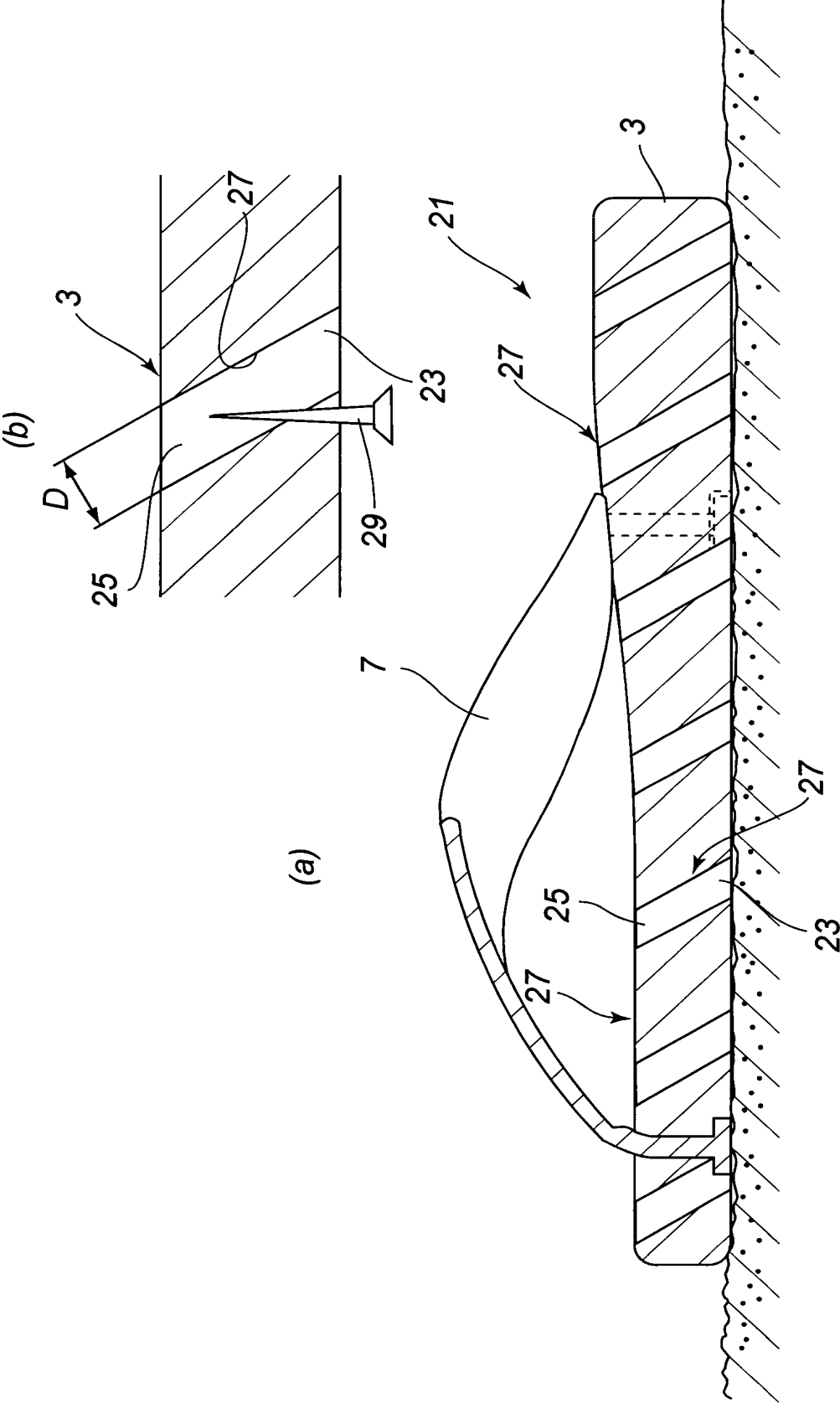


【図 3】

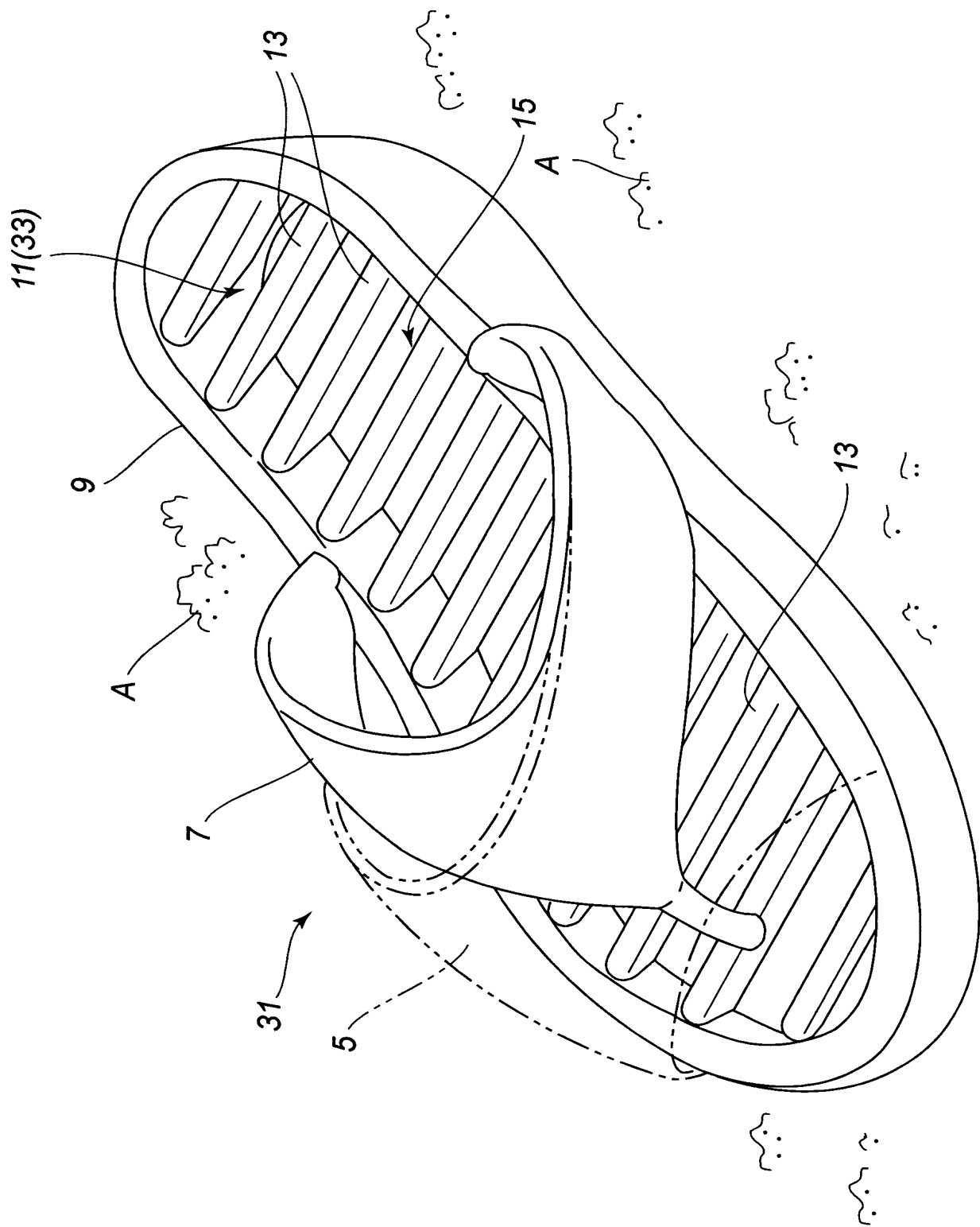


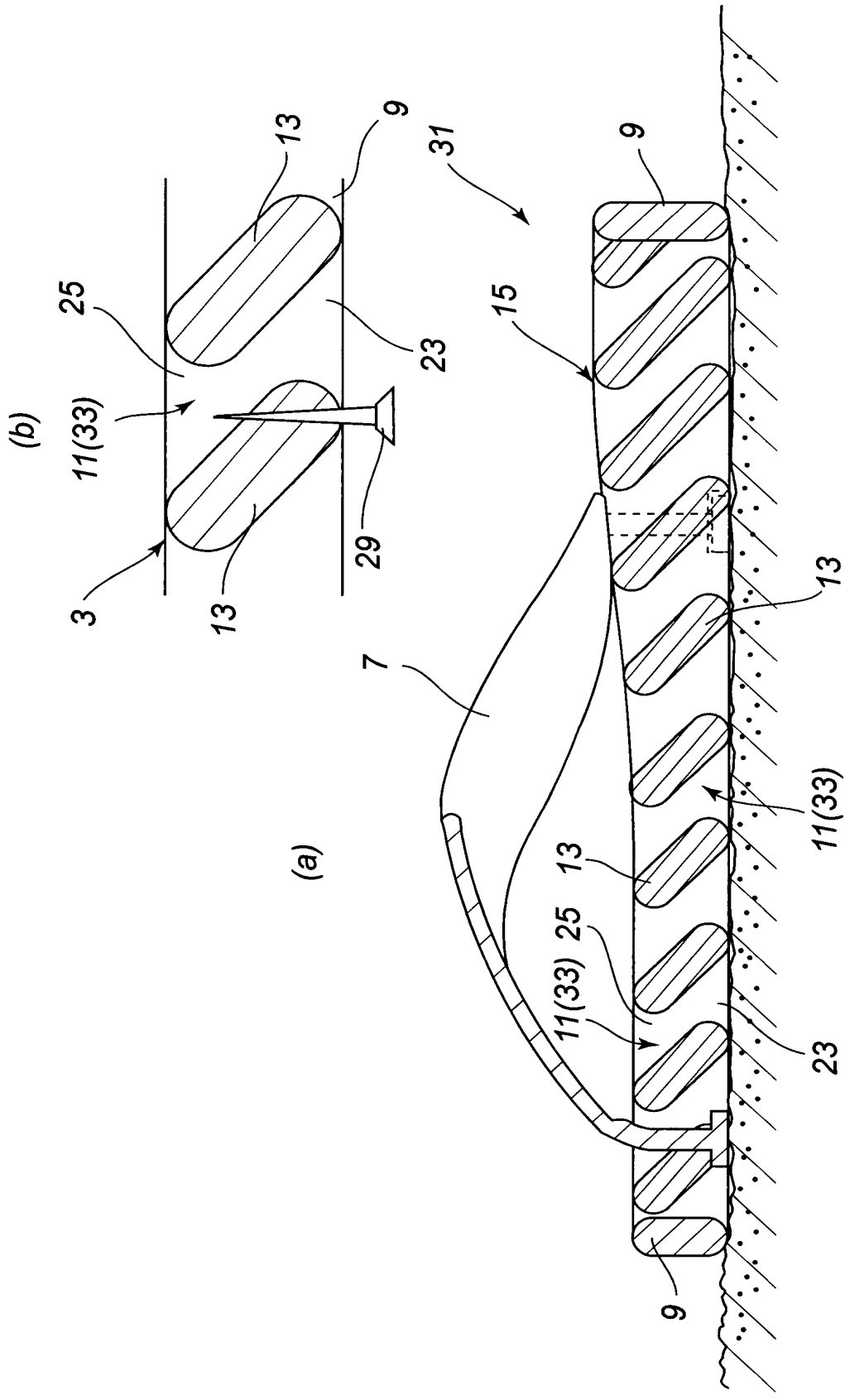
【图 4】

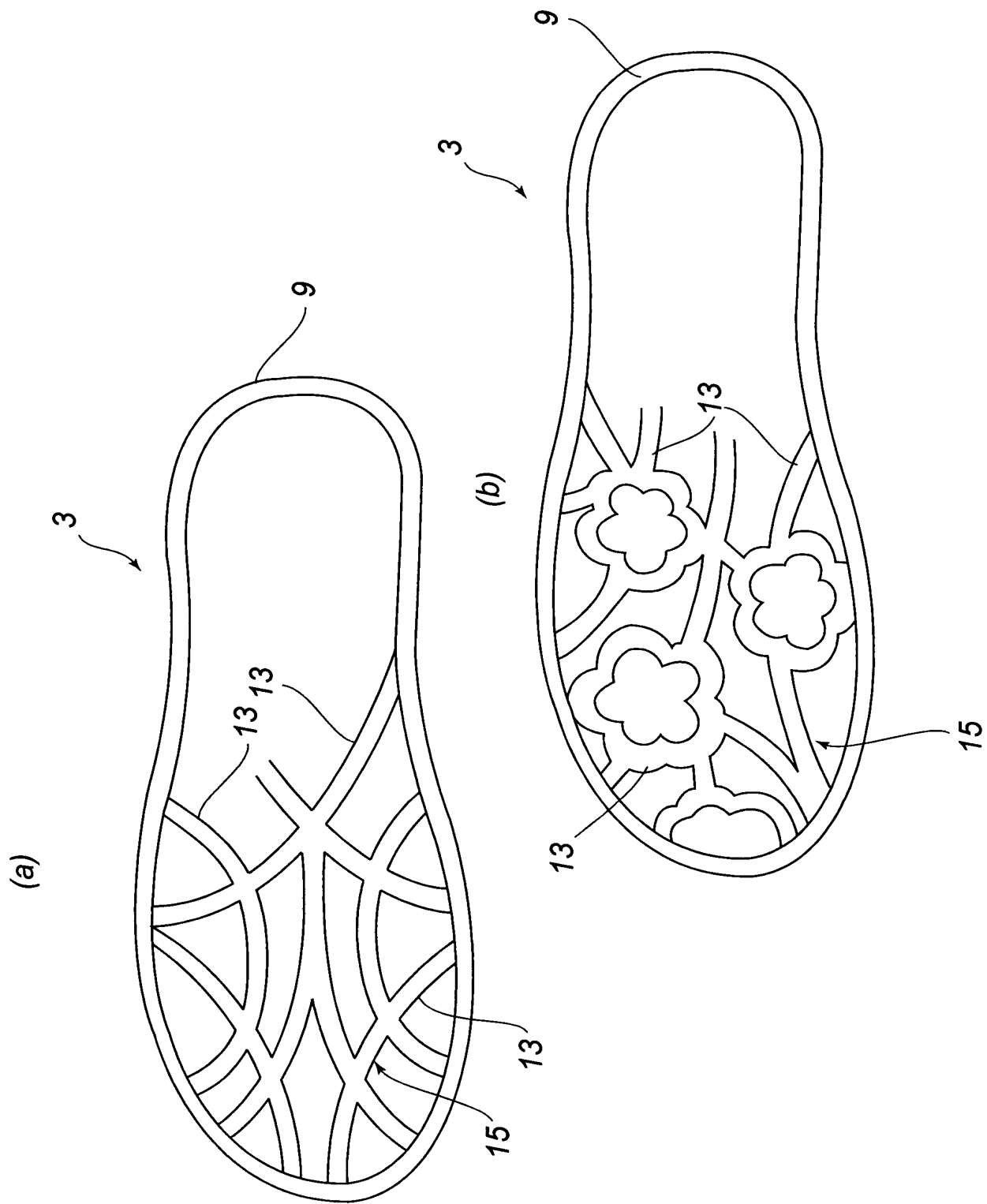


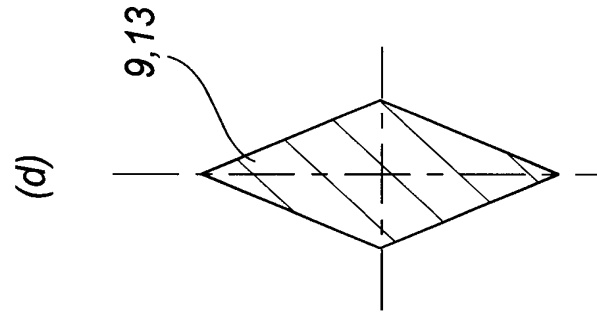
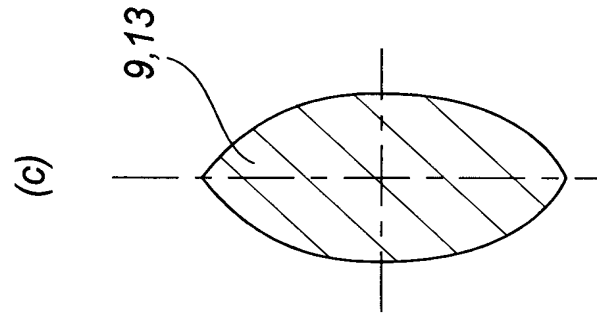
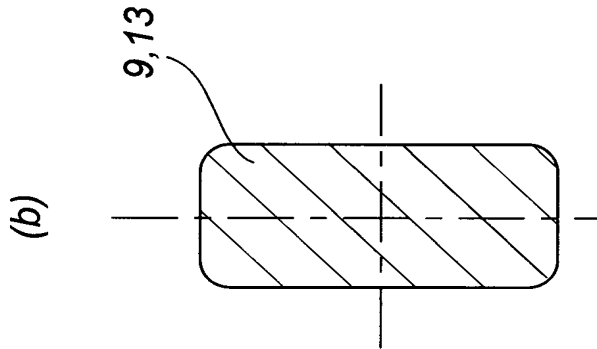
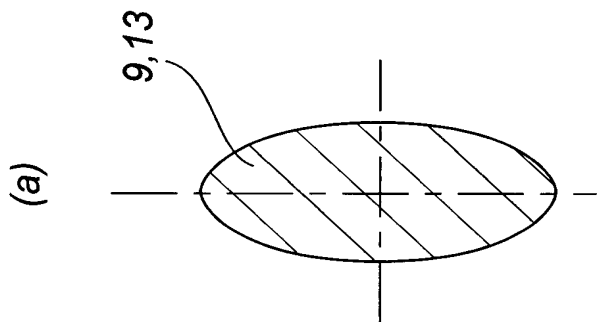


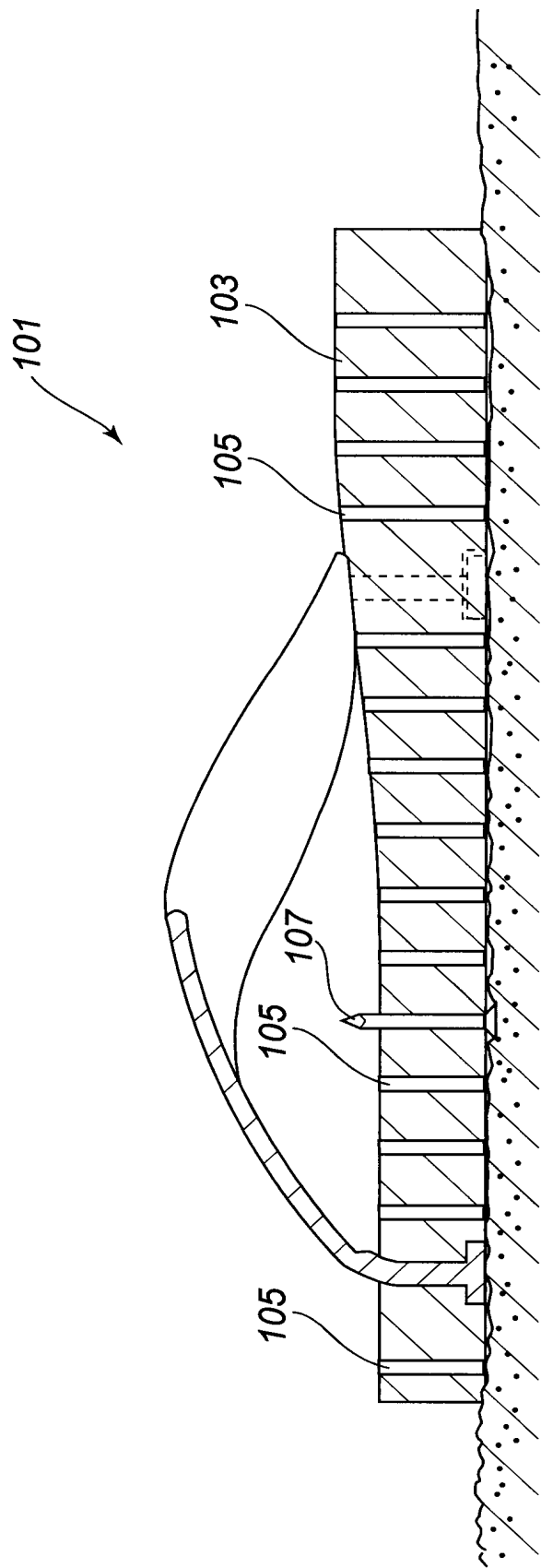
【図 6】











【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 砂等の付着が少なく、水中で使用した場合の水の抵抗が少ない、また足の裏の蒸れが生じ難く、指圧効果もあり、加えて突起物の貫通が防止でき、意匠的効果の高いサンダルを提供すること。

【解決手段】 サンダル 1 は、ソール 3 を外形を形作る外枠 9 と、外枠 9 内に適宜の間隔 11 を開けて設けられる棒状ないし板状の棧要素 13 によって構成される内棧 15 とを備えている。また本発明のサンダル 2 1 は、ソール 3 に底面開口 23 と上面開口 25 とが水平方向にずれるように傾斜穴部 27 を複数個設けている。また本発明のサンダル 3 1 は、外枠 9 と内棧 15 とによって区切られた開口部 33 を底面開口 23 と上面開口 25 とが水平方向にずれるように斜めに形成した。

【選択図】 図 1

出願人履歴

3 9 0 0 3 3 4 3 3

20040305

住所変更

静岡県富士市浅間上町 1 6 番 1 7 号

山口 拓道

0 0 0 1 7 8 0 9 9

20040305

住所変更

静岡県富士市浅間上町 1 6 番 1 7 号

山口 すみ子